

火山

監視と防災情報



生命に危険を及ぼす主な火山現象

火山は時として大きな災害を引き起こします。大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命に対する危険性が高いため、防災対策上重要度の高い火山現象として位置付けられています。

大きな噴石（浅間山）



火砕流（雲仙岳）



融雪型火山泥流（十勝岳）



上富良野町提供

火山災害から命を守るために

各火山でどの範囲にどのような火山現象が想定されているのかということに加え、防災対策に必要な避難場所などの情報を、火山防災マップで知ることができます。地元住民の方だけでなく、登山や観光等で火山に行く方も目を通しておくとよいでしょう。

<p>ハザードマップ（火山防災マップ）を見て噴火警戒レベルに対応する危険な場所を確認しておきましょう。</p>	<p>あらかじめ避難場所を確認しておきましょう。</p>	<p>異常と思われる現象を発見したら、すぐに地元市町村、警察、気象台などに連絡しましょう。</p>
<p>気象庁が発表する噴火予報及び噴火警報に注意しましょう。</p>	<p>噴火のおそれがある場合、危険な地域では事前の避難が大切です。</p>	<p>地元市町村の指示があった場合にはそれに従いましょう。</p>
<p>噴火時の風下側では、小さな噴石が風に流されて遠方まで降るため、注意が必要です。丈夫な建物などに避難しましょう。</p>	<p>土石流、融雪型火山泥流が発生したら流路から遠ざかる方向に避難しましょう。</p>	<p>火山ガスや噴気地帯に気をつけて登山計画を立てましょう。</p>

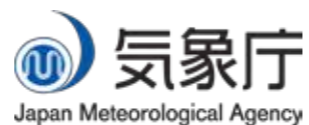
登山や観光など火山に行くときには

気象庁ホームページで、火山防災情報などを提供しています。登山や観光など火山に行くときはご活用ください。



https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/map_0.html

〒105-8431
東京都港区虎ノ門3-6-9
電話；03-6758-3900（代表）



令和5年11月発行



気象庁の火山監視

我が国にある111の活火山のうち、「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として選定された50火山について、気象庁では火山観測施設を整備し、関係機関からのデータ提供も受け、火山活動を24時間体制で常時観測・監視しています。



噴火警戒レベル

火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき対応」を5段階に区分して発表する指標です。

レベル キーワード	住民等の行動	登山者・入山者への対応
レベル5 避難	危険な居住地域からの避難等が必要。	—
レベル4 高齢者等避難	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要（状況に応じて対象地域を判断）。	—
レベル3 入山規制	通常的生活（今後の火山活動の推移に注意。入山規制）。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。	登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。
レベル2 火口周辺規制	通常的生活（状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等）。	火口周辺への立ち入り規制等。
レベル1 活火山であることを留意	通常的生活（状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等）。	状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

気象庁から発表する火山防災情報

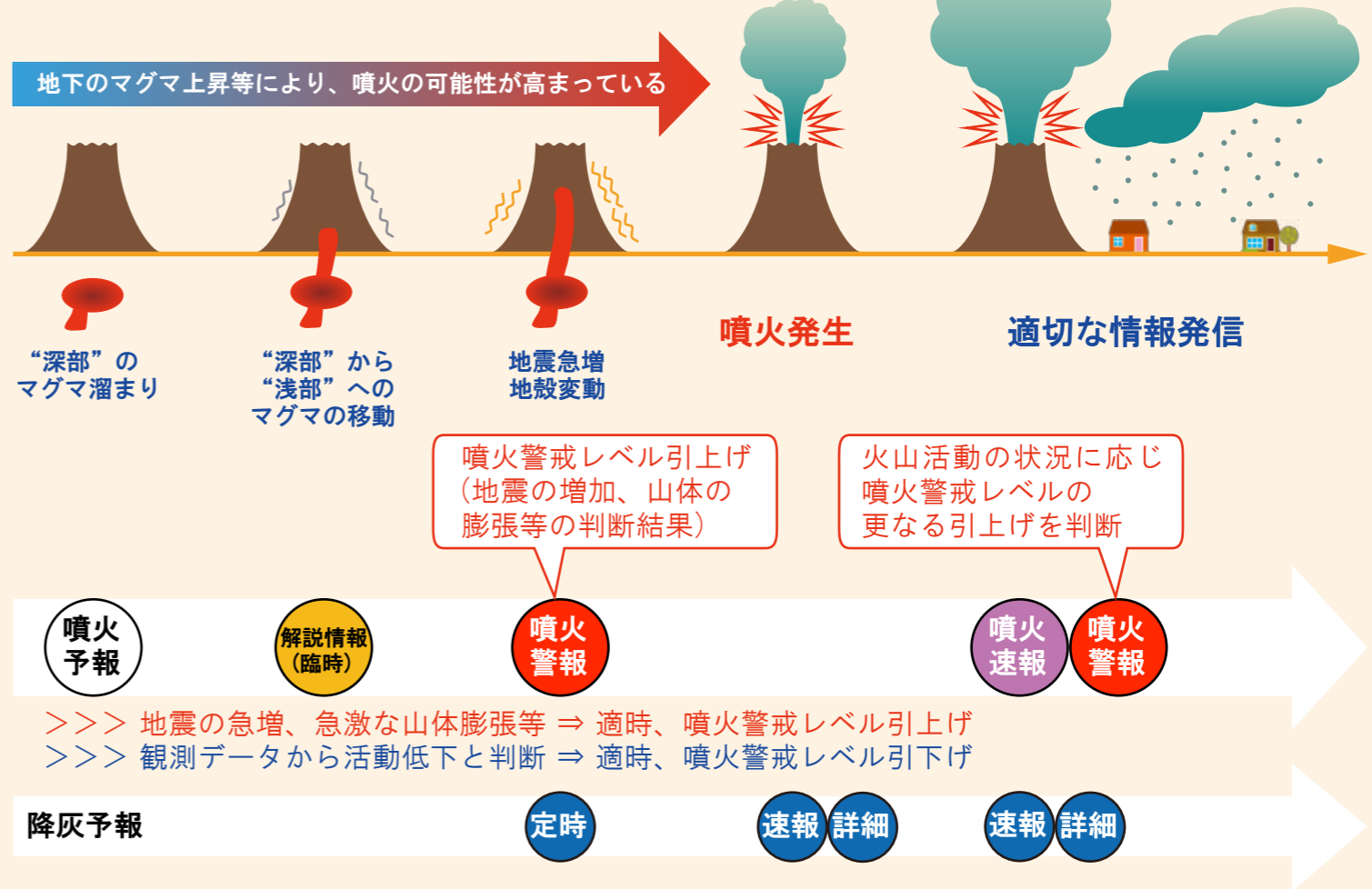
報道機関・都道府県・市町村などを通じて、住民や登山者の皆さんに火山防災情報をお知らせします。

噴火警報	噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象の発生やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合等に、噴火警戒レベルを付して発表
噴火速報	登山者や周辺の住民に対し、噴火の発生をいち早く伝え、身を守る行動を取っていただくために発表
火山の状況に関する解説情報(臨時)	噴火警戒レベルの引上げ基準に達していないが、火山活動の推移によっては噴火警戒レベルの引上げの可能性がある場合等に発表
降灰予報	「降灰量」や「風に流される小さな噴石の落下範囲」を予測して、「定時」、「速報」、「詳細」の3種類の情報に分けて発表

この他に、火山の状況に関する解説情報、火山活動解説資料、噴火に関する火山観測報などがあります。詳細については、気象庁のホームページをご参照ください。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/vol_know.html

噴火と情報発表のイメージ



ここで示す火山の活動状況は一例であり、実際は様々なケースがあります。噴火警戒レベル1でも、火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られることがあります。